

※本紙全てのコンテンツの無断転載・複製・転用を禁止いたします。



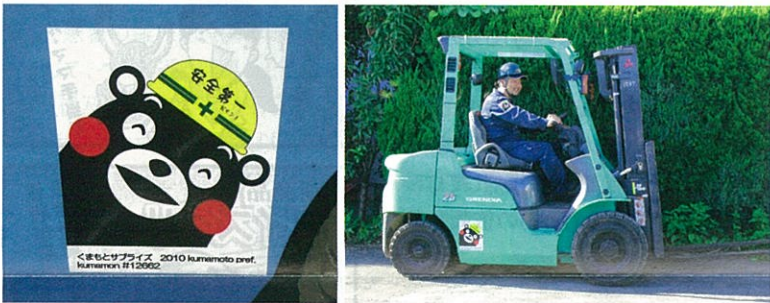
「小よく大を制す」モデルで成長

旭フォークリフト、取引先数8000社突破

モノが売れない時代にどう売るか。建設機械販売・レンタルの旭フォークリフト(相模原市中央区田名、☎042・762・4630)は、コロナ禍でも顧客数を増やし続けている。社員数20人に満たない会社ながらも、顧客数は首都圏を中心に8000社を突破。「売るための努力」をしつつ、「小よく大を制す」の独自モデルにより、同業の大手企業との差別化にもつなげている。

■あの「くまモン」とコラボ
同社は全国でも大人気の熊本のマスコットキャラクター「くまモン」とライセンス契約。フォークリフトにくまモンのステッカーを貼り、「くまモンのフォークリフト」として売り出している。有名企業も

参入するフォークリフト業界だが、その中で同社のような中小企業が単独で社名や商品・サービスをブランディングしていくのは難しい。
しかし、最初から認知度が抜群の「くまモン」とコラボし、それを前面に出せば



イメージが定着する。今では同社のことを知らなくても「くまモンのフォークリフト」として認知されるまでになった。

■新規はレンタル半額で差別化

フォークリフトのユーザーは業種を問わない。そのため、コロナ禍の影響を比較的受けにくいとされる。だがその分、同業他社との競争も激烈。人海戦術でできる大手と比べ、限られた人数でいかに顧客を広げるかも問われる。

そこで打ち出すのがレンタル「半額」の戦略だ。同社の場合、最初の1か月に限り、レンタル費を半額に設定している。「入り口が「半額」だったら、お客さんは「試しに使ってみよう」となります」(横江利夫社長)。新規営業に人と時間をかけるより、むしろ顧客サポートを手厚くすることで、確実にリピートしてもらえるよう注力している。

■年3回の賞与に社員投票

社内でもユニークな取り組みを進め

る。例えば、数年前から働き方改革の一環として、常態化していた残業にメスを入れた。

といっても、特別な仕組みを入れた訳ではなく、社員が残業する都度、「残業届」の提出を義務づけている。これだけで、毎月計30時間残業していた社員が、同2~3時間に減ったという。「当事者が書類を書くことで意識の改善につながります」(同)と明かす。おのずと生産性が向上し、会社の売り上げもアップしたという。

賞与支給も工夫する。通常のボーナスは夏・冬の計2回だが、同社は3回に分けている。具体的には、連休前の5月、お盆時期の8月、12月に分割。「連休前は家族旅行やイベントでお金が必要になります。ならば、その前にボーナスが出れば大分助かるはずですよ」と、横江社長は説明する。

また、毎回の査定時には、各社員が



「自分以外で頑張った社員」と思う誰か1人を投票してもらい、その得票数に応じて特別給が上乘せされる。周囲にも認めてもらうほど頑張れば、報酬にも反映される仕組みで、モチベーション向上にもなるという。

このように独創的な経営を続ける同社。限られた経営資源の中で「小よく大を制す」といえるモデルを構築しており、コロナ禍に左右されず成長を続けている。

動物の再生医療に道筋

ベタニック、イヌのiPS細胞を活用

慶応義塾大学と日本大学発のスタートアップ、Vetanic(ベタニック、藤沢市)は、動物用の再生医療等製品の販売を目指す。世界で初めて、イヌの細胞から疾病の治療に用いる「臨床応用」ができるiPS細胞を、安全かつ効率よく作る技術を開発。これをベースに関連製品の实用化を進める。動物の再生医療は、倫理的な課題があったり、一部の動物病院に限られたりしていたが、製品が登場すれば身近になることが期待できるという。

同社の技術は、独自に作製したイヌのiPS細胞を、「間葉系幹細胞」と呼ばれる細胞に分化させる。この細胞は体にもともと備わっている幹細胞(体性幹

細胞)の一つで、増殖能が高く、神経、脂肪、骨、血管などに分化できる細胞。例えば「炎症性腸症」などのような炎症性の疾患を持つ犬に投与すると、周囲の細胞の炎症を抑え組織を修復する特徴があるという。

こうして作った「イヌiPS細胞由来の間葉系幹細胞」を再生医療等製品に適用していく。

現在の動物再生医療でも「間葉系幹細胞」が使われている。ただ、ドナーとなる健康なイヌの皮下脂肪から採取す



るため、動物の身体的負担が懸念されている。動物病院も専用設備が必要で、細胞を増やすのに時間がかかる。結果的として治療が高額になりやすく、普及には課題があるという。

■従来の懸念を払しょく

その点、再生医療等製品が普及すれば、従来の懸念材料を払しょく。「治療を諦めていた犬を一匹でも多く助けられます」(望月昭典社長)と言う。2024年には国内での産業実装化を視野に入れる。同社によると、国内でペットとして飼

われている犬は15歳未満の子どもの数をはるかに超える。「家族の一員」として人間と同様の治療を望む声も高まっているという。

再生医療も例外ではないため、今後の市場拡大は間違いなく「他の動物にも使える製品も開発していきたいです」(枝村一弥社外取締役・技術ファウンダー=日本大学教授)としている。

なお、開発などにかかる資金1億5000万円は調達済み。技術シーズの社会実装化助成金「はまぎん財団Frontiers」の大賞にも選ばれた。

女子サッカーのノウハウ、健康経営に

大和シルフィード、中小企業対象にサポート

サッカーなでしこリーグ、大和シルフィード(大和市深見西、☎046・207・5877)は、女子サッカーチームの運営で培ってきた選手たちのヘルスケアに関するノウハウを生かし、中小企業の健康経営をサポートする。

チームの女性監督や専門スタッフらが企業を訪問し、女性従業員に対するケアや研修、ワークショップなどを定期的にも実施する。女性が本来のパフォーマンスを発揮できるよう、女性特有の

健康問題に対して、周囲の理解を促す支援をしていく。

同チームとスポンサーシップ契約をした企業に対する付加価値的なサービスとして実施する。

なでしこリーグで数少ない女性監督の一人である藤巻藍子監督をはじめ、専門スタッフを派遣。個別研修やセミナーなどを通じて健康経営をバックアップ。要望により、全従業員を対象とした運動教室も開催する。

■5割が「困った経験ある」

経済産業省の調査によると、女性従業員の約5割が、女性特有の健康課題などにより「職場で困った経験がある」と回答しているという。



月経や月経前症候群など、女性特有の症状に対する職場の理解が深まるには、女性従業員に対するケアと同時に、男性上司や同僚、部下の理解も必要になってくる。

「クラブには各分野の専門家がいます。その知見を生かしてサポートできます」と大和亮介社長。健康経営のみならず、SDGsの5番目のゴールである「ジェンダー平等を実現しよう」などをめざす企業にも関心を持ってもらいたいとしており、チームとのスポンサー契約を提案する。

「女性従業員のケアをしている企業」として、人材採用の面でも差別化できます」(大和社長)とも話している。



オミクロン株

南アフリカで確認された、新型コロナウイルスの新しい株「オミクロン株」は、11月29日時点で12の国や地域で見つかっています。これまでよりも、感染力が高いとされており、ワクチン効果についても、現状ではまだよく分かっていない

すでに始まっていた、「水際対策強化に係る新たな措置」についても、新規の受付が停止されています。すでに受付された申請についても、審査停止となりました。これを書いている時点の情報では、すでに受付された申請についての取り扱いをどのようにするかは未定で、いったん「無効」とするのか、中断したものを再開して審査するのか、それとも全く新しい申請として受付をするのかなど、まったく分かって



今村正典の海外市場

そのような状況を受けて、政府は11月8日から始まっていた、水際対策について全面的に停止し、30日午前0時から外国人の新規入国を禁止するという措置を取りました。この措置は、感染拡大防止のための緊急避難的な予防措置とされ、期間は1か月程度となっていますが、状況によってはそれ以上となることもあるようです。

いけません。ただし、「日本人の配偶者」や「日本人の子」「永住者の配偶者」「永住者の子」など、特段の事情がある場合には、入国することも可能です。しばらくの間は、時々刻々と変わる情報を注意して確認しておくことが大切です。

(のぞみ総研代表取締役)